

## 第12回県政ひざづめ談議結果概要

- 開催時間：平成22年10月22日 16:15～
- 開催場所：県立青少年センターリバース和戸館
- 対話グループ：山梨年輪の会

### ○司会

皆さん、お待たせいたしました。県政ひざづめ談議を始めさせていただきます。まずはじめに横内知事からあいさつをいたします。

### ○知事

皆さん、こんにちは。

今日はそれぞれお忙しい中、こうしてお集まりをいただきまして、本当にありがとうございました。

今日は年輪の会の皆さん方にいろいろとごつくばらんにお話をさせていただきたいと思います。

皆さん方は、私どもが期待を寄せている林業所の方々の集まりだということでございまして、ぜひ皆さん方には頑張って山梨の明日の森づくりを支えていてもらいたい。そのために、企業としても発展をしていただきたいし、そしていろいろな知恵を出しながら、素晴らしい森づくりに取り組んでいただきたいと思っています。

林業・森づくりは最近、明るい光がだんだん当たってきているということがあります。地球温暖化対策という一環として、間伐の必要性も、よくよく必要性というものが広く一般の県民・国民に認識されてきておりますし、また間伐材等もできるだけ有効活用をしていこうという動きが出てきております。

特に、外国材の木材価格が非常に最近上がってきましたが、住宅メーカーなんか外材を使わずに、国産材を使おうということが、随分増えてきておりまして、それだけにやっぱり間伐材などについても、できるだけ搬出をしてきて、それを有効に活用する。それは住宅材として活用することとか、あるいはペレットのような形にして使っていくとか、いろいろな使い方があると思いますが、そんなことで林業・森づくりというのは、最近は本当にいろいろな意味で楽しみの多い事業だというように思うわけでありまして。

そんなことで今日は皆さん方それぞれ、普段お仕事をしておられて、悩み事もあったり、お気付きのこともあったり、県行政に対する注文などもあったりすると思いますが、遠慮はしないで、ごつくばらんにお話をいただければありがたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

### ○司会

それでは、同席をしております県の担当者を紹介させていただきます。

森林計画や森林整備事業などを担当しております、宇野森林整備課長です。

### ○森林整備課長

森林整備課長の宇野でございます。よろしく申し上げます。

○司会

それでは早速、ひざづめ談議を始めさせていただきます。

○知事

会長さんから何か一つ、口火を切ってもらって。

○参加者

山梨年輪の会は平成元年に設立しまして、全国植樹祭とか、全国育樹祭などに協力しています。あと、学校林の間伐など、ボランティア活動をさせていただいています。

○知事

今、何名ぐらい入っているんでしょうかね、この年輪の会は。

○参加者

大体40名ぐらいですね。

○知事

会長さんのところは今何人でやっているんですか、会社は。

○参加者

今うちはちょっと少なくて3人なんですが。

○知事

県有林を受注して、間伐をやったりとか、造林をやったりとか。

○参加者

そうです。少し従業員を増やしたほうがいいと思うんですが、県有林などの仕事が出てこないから、人を増やすことができないんですよね。

○知事

間伐なんか出ているんじゃないですか。

○森林整備課長

そうですね。間伐自体は、昔に比べるとやっぱり量が……。昔から代々やられている方、昔の事業量に比べるとやっぱり減ってきているのかなと。近年としては、ちょっと間伐を一生懸命やっているということはあるかと思いますがね。飛躍的に増えるということはないです。

○知事

場所は御坂ですね。御坂山地ですね。あまり人工林がないような感じがするんですが、そうでもないですか。

○参加者

ほとんどもう人工林のほうが多いですよ。

○知事

そうですかね。県有林ですから、間伐は適宜やっているわけですよ。

○参加者

ええ。でも間伐も結構やり切っている感じもあるんですよ。

○知事

県有林の場合はね。民有林はそうでもないけれどもね。

そうでしょうね、県の管理だからね。やっちゃっているでしょうね、ちゃんと

ね。これじゃあ、仕事はあまり増えないですよ。

○参加者

県有林は、県が計画的に予算をもってやっていただいているんですが、民有林は予算というか、負担金があったりして……。やっぱり間伐を1回やると10年近くやらなくて済んでしまうんですね。やらなくていいというか、間伐は毎年やる行為ではないもので、やはり私どもは木を切って売って、また植えるという回転をしたいわけです。

先ほど知事さんが木材、外材が上がってきたから、私どもも期待しているわけですが、まだ今は、間伐だけの施策で補助金をいただきながらやっているわけです。

○知事

だけど、御坂山地あたりだとどうなんですかね。伐採をして、皆伐して、造林すると。そういうところもあるんでしょう、県有林で。あまりないですか。

○参加者

あまりないですかね。

○参加者

民地のほうはやっていますよね。一般的には4割とか3割、消費者が負担しなければならないわけだけれども、その3割、4割を県外の、あるいは県内の体力のある企業に出していただいて、今年1ヘクタール、来年も4ヘクタールぐらい、この中の仲間に助けてもらいながら、森林組合と一緒にやるわけなんですけど、ただ特例というか、もう少しそういう仕事を増やしていきたいとは思っておりますけれども。

○知事

そうですね。民有林はかなり切っているんですかね。

○森林整備課長

そうですね。一応環境公益林というような、所有者負担のない間伐というような仕組みは用意してはいます。私が皆さんにお伺いしたかったのは、やっぱり所有者の方との調整とか、そういうところは結構大変なのかなという。

なかなか今の所有者の方って、価格が低くて切りたがらないということを知っていますが、それで皆さん、県有林が主体だということですが、県有林でそういうことを進めなければいけないのが、今、我々としての課題かなと。

○参加者

今、御坂でも県有林が公売になった場合は、積極的に買いまして、あとやっぱり仕事で植栽したりできますので、ほとんどこなしていくというか、やっていきますね。

○知事

県有林が売られた場合には、買って……。

○参加者

ほとんど御坂の場合は100%とっていいぐらい買いますね。

○知事

なるほどね。そうですか。

割と出しやすいんですかね、御坂は。

○参加者

結構道路に近いし、山があまり深くないもので、出しやすいほうですね。

○知事

林業は、割と若い人が入ってくるんですよ。結構そうでしょう。そうでもないですか。

○参加者

入っては来るんですが、長続きしないんですよ。

○知事

給料が安いから。

○参加者

ええ。

○知事

ただ好きなだけじゃできないですよ、これは。

○参加者

やっぱりきついですし、今言った給料も安いところへ持ってきて、天候にも左右されますし、雨が降っているときだと、足元が滑りやすくなってしまって危険です。そういうことを考えると、仕事を休みにしなければならなくなってしま。そうすると安いものが、雨が降るときだとさらに下がってしまうという感じで。

○参加者

若い人が入ってきても、1人ものときは結構、きつくても、安くても、我慢していただけるんです。40代ぐらいになって、仕事ができるようになったときに、子どもを育てなければならない。奥さんと相談して、そんな仕事だったら、もうちょっとほかの仕事をしていたほうがいいんじゃないかといって、本当に一人前になってきたら辞めてしまうと、そういうことが多いですね。私もそれが悩みで。

○参加者

若い人を育てるのに、かなりコストがかかるんです。それがちょうどぶつかって、ペイするあたりから、逆に辞めてしまうと。せっかく投資した部分が、会社としては、かなりマイナスが大きいですね。

○知事

林業が儲かる産業になればいいけれども。

○参加者

それは本当に林業をやっていると、若いけれど二世でやっている人たちもいる。その悩みはすごく深刻ですよ、林業の中の悩みとしては。

○知事

それは人不足ということですか。それとも給料が安いということですか。

○参加者

危険の割には収入は少ないので、もちろん給料が安いということです。林業の平均年収が200から300というのが一般的でありますから、40代で300万円以上取れないと、子どもを育てていくのに大変だということがあって、若いうちは一生懸命やってくれても、子どもが大きくなると、やっぱり危険じゃないような仕事にいきますとって辞めていく。非常に悩みの種です。

○知事

ほかにどうですか。どなたでもいいですが。

○参加者

林業は大変だということはあるんですが、もちろん危険ということもあります。危険な仕事をどうしてこなしていけるかというのは、経験もありますし技術なんですよ。その技術力があるというのが大前提であって、人がいないから人材派遣で3人呼ぼうかという世界ではないんですよ。

3年から5年、下手すれば10年しないと絶対に身に付かない。仕事しながらも四方八方に注意を払って、暗黙の、もうツーカーの呼吸じゃないですが、そういったときになったときに、初めて利益というものが生まれてくるような世界になってくると思うんですね。そこまで人材の育成をしていくということに、力を注げるだけの体力がなくなってしまうんですよ。

先ほど知事さんのほうから言われましたが、間伐、山梨はやっているんじゃないのかなという、やっぱり認識をされているじゃないですか。されているとは思いますが、実はその間伐といっても、何で間伐をやっているかということ、まず考えてみると、皆伐をして材を売ると植えなければいけない。要は育てるときにかかった金額に材価が追いつかなければ、赤字になる。赤字になるから、補助金をもらって間伐を進めようと、そういう世界だと思うんですよ。

そうではなくて、本来の山の形というのは、今ここで見えるように、山はそこにあるだけで、もう大きな役割を果たしていますよね。そういう山の役割というのは、もちろん私たちが大きく関係している、その経済林というような分野もありますし、緩衝林とか、いろいろな機能を持っていると思うんですが、全体的にやっぱりいろいろ見てもらえると、赤字になってしまうから、この仕事はやりたくないほうがいいとか、そうではなくて、やっぱりいろいろな観点で山を守っていくという。今までずっと何百年も、何千年もかもしれないですが、山に人が入って枝を切ったり、木を切ったり、そうやって手を入れて今の山があると思うので、今、結構放棄されているような状態になってしまうんですよ。

その私有林ももちろんそうだと思いますが、県有林に関しては、特にそういうことが絶対ないように頑張りたいと思います。

○知事

県有林は県のものだから、やっぱりこれはきちっと金を出しても、そういう管理はするんですが、民有林ですよ。

確かに民有林と言っても、所有区分がはっきりしなかったり何かありますよね。なかなか進みませんよね。

○参加者

木材の市場のことなんですが、私たちも山を買って、そこに出したりなんかしているんですが、その流通のシステム緩和と、そして県森連とか東部市場ですか、私たちの目から見て、あまり機能してないと思うんですよ。機能の向上を・・・。

○知事

そうですか。

○参加者

これはどっちが悪いのかと、いろいろな意見があると思うんですが、やっぱり材がたくさん入ってくると、お客さんは買いに来ると思うんですが、材があまり入ってこないと、丸太が入ってこないと、お客さんも少なくなりますよね。どっちもどっちだと思うんですが、どっちも言い分はあると思うんですが、やはり我々も協力して、材をそこへ入れれば買い受け人も県内外から来ると思うんです。ただ、県内で元気よくやっている製材屋というのは少なくなってしまうんですね、現状的には。もう大工さんのほうが力を持ってしまって、昔は製材屋さんのほうがかなり力があつたと思うんですが、本当に何社かなくなってしまったような現状ですね。

○参加者

ちょっといいですか。自分、以前からずっと感じていたことが、国の施策もそうなんですが、補助金の出し方というのが、山の川上のほうに割と補助金をかけやすいじゃないですか。そうすると、確かに生産に対してはかなりやろうという意欲が出てくるんですが、いよいよ今度出そうと思って、では売り口はどこなんだろうと探したときに、今のその問題が起きてきたわけです。

そうすると、なぜ今までうまくいかなかったのかなと考えたら、自分が思うのには川下のほうにもうちょっと、同じお金を使うのだったら、使ってみたらどうかと思うんですよ。

要するに、その製材屋さんであったり、使う消費者であったり、そのへんにお金を使って、消費の要するに出口というか、その出口をつくれれば、自然にそこで口が開いてくるじゃないですか。そのパイプを太くしていくことによって、流通が自然と活力を。

そうすると今度は民の力で、自助努力でどんどん上に、川上にいくと思うんですよ。実際に例えばほかの県を見たりしても、活力があるところはやっぱりそういう形なんです。要するにはけ口ができたところから、道が付いていって、川上にだんだんお金がこう上がっていくという。

せっかく大事な税金を投入するわけですから、効率良くやるには、どうも今まで上にやっていたけれども、どうしても糞詰まりになってしまう。そうすると、やっぱり出口へうまく金を使って、効率を見ながらそこに入れていくという。そうすることがすごく重要で、当然、住宅産業なんかもそうでしょうけれども、さっき言ったいろいろな使い道というものにも、開発なんかにもお金を使ったらどうかと思うんです。そうするといろいろなルートが今度できてきて、それでまたネットワークが生まれたりとか、道筋ができていくという、そういうことがすごく理想ではあるんでしょうけれども、でも実際、そのへんにちょっと目を向

けるべきではないかなと思いますけれども。

○知事

要するに県産材の活用方策について、もっと支援をしろと。県産材が使われるようになれば、自然に川上に上がってくるんだということですね。

だから県産材住宅なんかについても支援していますよね。あまり金は使ってないかな。

○森林整備課長

規模としてはなかなかで、ご指摘のあったとおり、森林整備だと結構、公的なお金が充てやすいですが、なかなか個人の資産にまでということになってくると、ちょっと厳しい。今、住宅で木をプレゼントとかやったりとか、少しずつしています。

○参加者

木が占める住宅の金額、それほど大きくないんです。木は、ついつい高いからとかと、どっちかという木を悪物にされがちなんです。木を使った家というのは、この木が80年育ったら、もう80年は最低でも持ちますし、100年とか持つものなんです。ところが、鉄骨であったりというのは、もう20年ぐらいでほとんど駄目になっていく。そのへんの投資の仕方、そういうのはもうちょっと考えてもらうように、PRもしなければいけないですね。

○参加者

やっぱりさっきも言った木材を流通というのは、山梨県内で今、市場というか、そういうさばいていただけところが南部のあの1つしかないわけです。県の木も小さいところを結構公売に出していただいているんですが、買ってもやっぱりなかなか持ってくる、南部まで持ってくるのに大変。また県外に持っていくのも大変。

結局そういうことで、この国中にも市場がありますけれども、こういう言い方をすると怒られてしまうかもしれませんが、うまく機能していないというような感じにうつるんです。このへんをもうちょっとうまくできたら、いいんじゃないかなとも私は感じますね。

○知事

南部の森林組合なんて元気ありますよね。加工もやっているしね。時々、業者が大勢集まって来てね、入札なんかしているじゃありませんか。

○参加者

南部までいつも持って行かなければならない。南部まで持って行くというと、極端に言ったら、トラックへ積んで県外に持っていっちゃうということと変わらなくなってしまう。例えば県森連だったら、量が少なくても持っていけるとか。

○知事

東部市場は、あっちのほうはどうなんですかね。

○参加者

東部にも一応持っていきますけれどもね。どっちにしても、やっぱりこちらのほうをもうちょっとしてほしいなど。

○知事

東部はどこにある・・・。

○参加者

森林組合連合会の市場。

○知事

あそこにあるんですね。それがあまりうまくいかないと。

○参加者

近くにあればね。でも近いところで売れば、同じ値段だったら、絶対そっこのほうが・・・。

○参加者

多少安くてもやっぱり、いわゆる造林を専門にやっているという言い方をしたらちょっとおかしいんですが、その中で今度は素材をちょっとやりたいんですけども、なかなかそういうことでできないという若い人が結構いるんです。

○参加者

意欲はあるんですが。

○参加者

みんな県の入札を取ったりしていても、やっぱり自分たちでつくった木を公売する日は、なるべく見にいこうなんていう話をしたり、いろいろしているんですけどもね。買わなくてもどんな金額で売れるかと。どういう木を育てたらいいかということで、みんなで見にいくと、みんなで参加するという話をよくするんですが。

県のほうでも、そういうところにもうちょっと号令をかけてうまくしていただければ、少しは活発になるんじゃないかなと。

○知事

木の国サイトはどうですか。機能していますか。

○参加者

あそこはやっぱり一番、こういう言い方をすると怒られてしまいますが、製材所がないというのが何か・・・。製材所がないじゃないですか。

○知事

木材にしたものを加工している。あの木材に加工するまでがない。

○参加者

ええ。それがないから。

○知事

それじゃあ、全くそうですね。

○参加者

それがちょっとあれかなと。

○知事

それはやっぱり製材所さんに遠慮したんですかね。一時期は結構あれをつくったころはまだ製材所があつてね、例えば葦崎の林業屋さんとか、あれが結構活発にやっていたけれども、今はなかなかその跡取りがないとか何とかというよう



なことで、みんな衰退してしまいましたね。

○参加者

製材部門があればもっと機能しますよ。

○参加者

今、製材所は人数がいなかったね。ここに座っている林業している人はみんな2世、3世です。

○知事

製材もやっているんですか。

○参加者

いいえ、製材ではなくて山を・・・。

○知事

製材所というのは、あれは二世、三世というのがあるんですか。

○参加者

結構やめるといほうが大きくて。結局、設備投資しなかったために、ラミナ材が引けないんですよ。あれはすごくちゃんとした技術が必要で、正確に引かないといけないので、そのための設備投資をできないまま、今度は技術が必要になったときも、できなくなってしまったという。それでラミナ材の供給ができなくて、下手すれば県外から持ってきてしまうみたいな、そういうへんな話になってしまっていて、せっかく山梨県のカラ松とかがあるのに、それをよそから買ってくるような形になっているんです。

○参加者

製材屋が食べていけなくなった原因というのは、プレカットが出たからですよ、間違いなく。そういうすべての企業がそろったところが出ると、やっぱり製材屋さんは対抗できないんです。すべてのものをもう全部そこでやってくれて。ただ、それが悪いということではないんですが、安くできるんですから。だからこっちのほうの、そういうプレカットの何かちゃんとした、例えば仕事のサイクルで、そういうことをつくってやっていただければ、すごくいいんじゃないかと。

もうすごい低コストでできるという、そこは、そういうものがないから駄目というわけです。

○参加者

それで山梨でも唯一あそこに製品の市場があるじゃないですか。だから、あそこをもうちょっと拡充して、誰が行っても、あそこへ行けば木が買えるよという、そういうところも必要ですよ。せっかく県産材と私たちも言っているんだから、そこにやっぱり県産材をいつでも買えるところがないということも、ちょっとおかしい話で、やっぱりそこを、せっかくあそこにあるんだから、それをもうちょっと拡充したらどうかなというのがあります。

○知事

今はだけど製材というか木はもう山梨で切っても、ほとんど外へ持っていっているでしょう。かなり持っていっている、シェアでね。

またもう1回戻って来る。

○参加者

戻って来る。製品になって戻って来る。

○知事

あれは例えばそういう製材というものは、このへんだとどのへん、長野県あたりに持っていくんですか、どこへ持っていくんですか。

○参加者

岐阜とかですね。向こうへ行くと、もう数100社とかと、そういう単位で製材が動いていますからね。やっぱり向こうの市場というと、そのぐらいの単位で市場に入っている。製材とかの業者さん。それとかもう大規模なものが多いので、こっちはちょっと太刀打ちできないと。

○参加者

1週間ぐらいで何100立方持っていっても、パッと売ってお金をいただける。もうトラックへ10台、20台、もうそんなところではない。何10台持っていても、1週間か10日でパッと。

○参加者

それが魅力ですよ。

○参加者

いくら出しても売れなかったらお金にならないから、給料が払えない。

○参加者

だから、それが1週間で勝負がついてしまうわけです。例えば、極端な話、月曜日に送った材がもう配済みされて、金曜日にお金になるという、そんな世界ですから、そうするともう全然このあたりの、月遅れでお金が入るところと全然違いますよね。経営的にも。

○知事

そうですか。  
どうぞ。

○参加者

山は、今、入札制度でやっているじゃないですか。それに対して管理指定制度みたいな制度を取り入れていく。やっぱり同じ人がずっと同じ考えでやった山のほうがいい山ができると思うんですね。去年はA社がやって、今年は安いからB社、C社といえ、方向性が、みんな一緒だったらいいと思いますが、やっぱりその人によって、ちょっと多少違ってくると思うので、そういうことを踏まえて指定管理者制度みたいなことで、山の管理を1社だったら1社に任せて。

○知事

この山の県有林はもうあなたのところへ任せますとか。

○参加者

そうですね、そういう感じで。

○知事

どうですか。

○森林整備課長

そうですね。一番やっぱりそういう意味では望ましい方向ではありますが、一方ではなかなか行政の仕組みとして、透明性の確保とか、あと変な話、新規の参入の方を阻害しているという印象を受けられてしまうのが、なかなかこういう意味では。例えば国営林なんかでは、その5年間とか、そういう仕組みは最近始まったようなので、そういうものはちょっと研究材料ではあると。やっぱり何十年も同じ方に任せるとするのは・・・。

○参加者

林業公社さんなんかはそういう形でやられていますから。

民有林でも同じだと思うんですが、だから本当は例えば植え付けたをした人が次の年はちゃんとしっかり下草刈りをして、その木を育てると。子どもを途中で人に手渡すという親は誰もいないと思うんですよね。私たちも同じ気持ちで、やっぱり植えるときには育ててほしいから、丁寧に植える。下刈りをするときにも、やっぱりこの子に真っすぐ育ててもらいたいと思って、そばにある草をなるべく排除しようと、そういう気持ちでみんな1本1本草を刈っているわけですね。

○参加者

やっぱりずっとというのはどうかなと感じます。指定管理というような、例えば今、県で行っているように、5年間とか何年間とかとやらせると。ずっとやるとなると、やっぱりいろいろな弊害が出て。

○知事

そうですね。一切任せのわけですね。じゃあこの山はもう伐採から造林から間伐から何だかんだと。あらかじめ決めておいてね、これだけのことをやりなさいよと。そして入札にして、指定管理者を決めて、5年なら5年を一切任せると。こういうことはありますね、確かにね。

○参加者

やっぱり今の時代は個人といっても、なかなか大変だと思いますので、例えば森林組合とか、そういうほかのところに、そこからみんなであれしてやるということをしていただくと、木をつくるという意味ではすごくいいんじゃないかなと。

子どもを育てるのを保育というじゃないですかね。もう1つ保育というものがあるけれども、皆さん知っていますかなんて、保育園の先生に言われたことがあるんです。我々もなんだろうと。我々が今やっている木を育てることも保育というんですと。

私なんかもずっと長年、山をやらせていただいて、木も人間とまるっきり同じではないかと。都留文大の何ていう先生だったか、忘れてしまったけれども、木も年を取ると保水力とか、CO<sub>2</sub>を吸収したりすることも低下してくると。

○参加者

それに関連して。

自分も国有林のほうをやらしてもらっているんですが、やっぱり一番は苗木を山に植えるじゃないですか。大きく育ててほしいんですよ。暑いときが来ようが、例えば春先に植えてすぐ雨が降らなくても、やっぱり活躍して大きくなりたくて、そう思いながらみんな植えなければ、本当に1本1本水をやるわけにはいかない

し、この気持ちだけでみんな一生懸命やっていると思うんですよね。

それなのにやっぱり時代に反するとは言いますけれども、最近、入札制度になってしまって、次に草刈り、私に取れるかな、すごい不安なんですよね。やっぱり自分で次に草刈りに来てやるからなという感じで、やるようであれば、やっぱりこの仕事はできないと思うし。今、おやじが植えた木のところを間伐させてもらっていますけれども、スパンの長い仕事なんです、50年とか。今5年と言っていましたけれども、できる限り長いスパンで今の話を、私は5年と言わずに、もっと長くお願いしたいから、と思うんですがね。

特に草刈りに行って検査。検査はやっぱり大きくなって木を切って、その木が売れて検査じゃないかと思います。

○知事

草刈りをやって検査をするんですか。

○参加者

します。草刈りだけで、この仕事として出て、草刈りが終わったら検査。みんな1年に同じ山へ2回も3回も検査に行つて。

○知事

なるほどね。

○参加者

なんというか、やっぱり私が緑にしたんだよと、やっぱり誇りを持って仕事をしたいですよね。

○知事

例えば、苗木なんか一時期シカに食べられたりありましたね。あれはもう完全に防除する技術というものはできたんですか。

○参加者

いろいろ四苦八苦しなから、最近、林務のほうでもいろいろ考えてくれていますけれども、一番のネックはやっぱり今の材価と、ネットをしたりしますけれども、そのバランスが取れるというか、取れないというか、材価だけで考えれば、先ほどの問題と同じように、バランスが取れないんですよ。でもやっぱりいろいろな意味で台風が来ても、今、山も崩れない。そのためにもやっぱり山に木があるからだと思っていますし、だから材価だけで考えるものではなくて、プラスアルファやっぱり空気とか水とか、そういう面で、いろいろなものでやっぱり、これは子どもに言ったことがあるんですが、お父さんは水をつくっているから、水をいっぱい飲んでいいよと。でもやっぱりそういうものを誇れるように、やっぱりここにいる方と一緒に年輪の会を始めたときにも、私が林業に入ったときに後継者はすごく少なかったです。

やっぱり自分がそうなると言いたくないと思って、この先輩たちと一緒にこの会を発足したんですが、今はやっぱりそういうものがもてない状態になってきてしまって、やっぱり息子に胸張って、やれと言えないです。やっぱりだから自分が今植えた木を、誰がでは間伐するのかと。そういう気持ちを持って仕事をしたいと思うんですけれどもね。ぜひともこの機会に10のうち1つでも2つでも

いいですから、そういうお金もあれですけども、そういう気持ちを持ちたいですね。

○知事

そうですね。なるほどね。

○参加者

ちょっと付け加えさせていただきますが、年輪の会の年輪というのと、会をつくったいわれというのが、実はこの林業というものを、自分の子どもに継がせる職業にしようというのがまず大前提にあるので、自分たちの後ろ姿を見せれば、子どもは自然に付いてくるよなというのが最初の合い言葉で会を始めて、じゃあ名前をどうしようかといったときに、年輪というのは必ず増えるんです。減ったことがないんです。

だから、必ず私たちもそういう会にしようということで年輪と、そういうネーミングにしたんです。私たちもそういうつもりで林業をやって来たつもりなので、それもかなり報われて、実は林野庁長官賞なんかもいただいて、何か認められて、少しは張り合いができたかなと思うんですけどもね。

○参加者

この20年前につくったというのは、やっぱり後継者がいなくて、若い人がいなくて、たまたま県の研修があったんですよ。若い人なんてやってないかなと思っただらやっていて。それで、じゃあ何とかしてみんなで集まってと言ったら、県のほうでもそういうことを言うてくれるのを待っていたとって協力していただきました。20年間やって、この中の人たちも、年輪の会がなかったら林業を辞めていたなんて、うれしいことを言うてくれるんですよ、本当にね。

○知事

しかし、ボランティア活動とかをやったりしておられるけれども、本業をやりながらでは大変でしょう。

○参加者

若い人たちも、そんなボランティアをしてもいいことは何もないから嫌だよという人が多いんです。当時は、研修を受けた卒業生には会に入っていたからすごい人だったんです。だからボランティアですが、愛宕山周辺の桜とか、マツクイムシとか、ああいうものは全部、年輪の会で当初は毎年、2回全部あのへん処理して。

○参加者

遊具の周りの木が邪魔になって、虫が出るということで、じゃあまずそれから始めようと。だからそれを最初はただ片付けて、チップ工場に運ぶだけだったんですが、じゃあこれも何とか生かそうということで、炭を焼いてもらって、その炭を今度はホテルを育てるために役立っていただこうと、相川に、川の浄化に役立てようなんて、そんなこともちょっとやったこともありまして。

○知事

相川というのは甲府の相川ですか。

○参加者

武田神社の裏側のね。あそこなんかはホタルの里で・・・。

○参加者

そんな活動をしたこともありますしね。あの頃はそういう活動ばかりしていましたが、目に見える効果というものがなかなかないものですから、ちょっと大変だったんですよね、その当時は。

○知事

そうですね。

ところで、県のほうでは、本格的に県産材を増加させていこうということで、路網をできるだけ整備をしたりとか、高性能機械を入れたとかというようなことを考えているんですが、どうですか、皆さんはそういうことに対しては期待を持ちますか。

○参加者

高性能機械ということに対して、県のほうからいろいろな形で補助金を出すという話が出ているんですが、その補助金を受けるための条件、設定条件がものすごく高いもので、私たちみたいな小さい会社にでも補助が受けられるように、もう少し緩和してほしいなということを感じています。

実際に高性能機械を入れたほうがコストは下がるし、それなりの仕事ができるということが分かっているんですが、そのものを1個人会社で買えるかということ、やっぱりちょっと正直今の材価とそういうものを考えると、買えないなというのが正直な気持ちなんです。

しかし補助金の話を聞くと、補助金を出すために、今やっている仕事よりも、もっと高いものを目指してくれと。それができないから、高性能機械を買いたいという状態なので、やっぱりもうちょっと下の人たちの目線から見た補助金の対象条件にしてほしいなということを感じました。

○知事

条件が厳しいですかね。

○森林整備課長

そうですね。結構国から今、来るものを我々は使おうとするんですが、やっぱり生産量は一定規模以上にしてくれとか、機械の性能とかというのは結構条件があるんですね。

○参加者

特に低コストにするのには、小規模ほど機械化したほうが、効力というか、特に県産材の供給なんて、小さいところからもう始まってくると思うので、大規模でやるというのは当然コストは下がると思うんですが、どんなやり方をしても。この小規模こそコストを下げたいので、そういうところに特に必要ですよね。私たちは特にそれを感じます。

リースに対する補助とかやってくれていますけれども、ちょっと条件がきついので、なかなかすぐにはいけないとか、早めに分かってないといけないということがあったりして、ちょっとそこまでなかなかできないというのも現状です。

○参加者

最近はそういうものが厳しいですね。いわゆる量が、ロットが大きくて、ものすごい単位が大きすぎて、やっぱり一般的な業者ではちょっと無理かなど。もうちょっとそういうものを、なるべく低くしていただければ……。高すぎて達成できないですよ。

○参加者

超零細企業でも使える補助金というのがほしいですよ。

○知事

今はレンタルをやっているでしょう。

○参加者

そうですね。リースでの。

○参加者

稼働率が低いから、リース代がべらぼうなんです。あと山の機械は修理も結構かかるので、メンテナンスも……。

○参加者

その修理代で結構いっちゃうんですよ。

○参加者

やっぱり材価が上がれば問題はないんですけどもね。

○知事

なるほど。

○参加者

あともう1ついいですか。

先ほど少し長いスパンでという話の中で、国と県の施策がありますよね。あれもやっぱりさっき言ったように、木が育つのは長い話なので、施策もやっぱり長いスパンでいろいろなことを考えて、何か時代の流れといっても、私たちは言葉で分かるけれども、木は分からないじゃないかと。

何か木がかわいそうだなと思うときもあるので、施策もできる限り長いスパンで考えていただいて、長続きする施策をいただければ。

○参加者

私たちは、木を切ったときになるべく先端までお金にしてやりたいんですよ。ところが今はどうしてもコストのことを考えて、そのロースの部分だけ、柱になる部分だけとかという使い方で、県有林なんかもそういう施策で、もう打ち出しの部分とか捨てる部分はもうなるべく手をかけないでくださいという形で、柱の部分だけをもう搬出しましょうという形になってくると、本来はすごく自分たち、そこで気持ち的にはちょっと心が痛いんです。ところがそれにちょっと携わってしまうと、そっちのコストのほうにかかっているくるし……。特に現実的な話をすれば、運賃なんかにもちょっと補助金が必要なのかななんて、流通に対してね。そうすると、かなり規模が生きるのかなど。

特に県有林の財産というのは県民の一人ひとりがつくったものだと思うので、やっぱり1本1本の木を県民全体で育てるんだという、そういう気持ちを持ってもらうのにも、そういうところを生かしてないと言えないじゃないですか。やっ

ぱりこれから導入する森林環境税なんかにも、そういうところをやっているというところを見せるのも、1つのアピールだと思うので、私たちもそういうところで一生懸命バックアップしたいと思って、そういうみんなができるような施策、自分たちも協力しますので、そのへんもちょっとバックアップしてほしいなと思います。

○参加者

施策というか、林業再生プランなんていうものがありますよね。2020年ですか、木材自給率を50%に上げるといっていますよね。けど今のようなやり方で、ただ50%に上げたのなら、やっぱり現場としてはとても、ただ上げてもらえばいいということではなくて。

○知事

今からじゃ、とても追い付かないんですか。

○参加者

金額的に、全然もう。さっきこっちからも話があったときに、いいところはともかく、もう無駄は全部捨ててしまうと。そういうものをやっぱり知事さんのほうでいろいろなことを考えていても、もちろん国内産をこう・・・。

○知事

捨てたところを、例えばペレットにしてとかね。

○参加者

そうやっているんですが、せっかくその工場に入りたいんですが、コストがかかってしまって、そこで出た利潤を全部食っちゃう。今言った50%達成するといっていますが、大きい合板工場に入れるのに、合板工場につけて1万円ちょっととかの金額というのは、搬出コストだけなので、要するにもうほかの、例えば山代であったりとか、そういうものがすべてチャラになってでないと、考えられない値段なので、それだと、地主さんに対して植えるという意欲があるかということ。せっかく今やっている、農業だと必ず収穫したあと肥料をまいて、また次に備えますよね。山もそういうようにするべきだと思うので、やっぱり地主さんに植えるという意欲を与えるような、また植えましょうというような、せめてそのくらいの金額は返してやりたいと思うんですけれどもね。それが材価だと思うんです。適正な。

○参加者

民有地の赤松が地主さんはもうはんこ1つで全部切られていることを知っていますか。切られているという言い方は非常におかしいんですが、松くいが出るじゃないですか。あれではんこを1回付くと、3年とか4年で、もう地主さんには連絡もなくして、松はどんどん切られて処理されていく。それだけ今、松はもう全然、材価の価値がないんですよ。

実際にはでもちゃんと出している、買えると思うんですけれども、どういうあれなのか。逆に米松は、私の聞いたところで間違っているかどうか分かりませんが、1本当たり2万8,300円ですか。それで取り引きされているという話も聞いていますし、なのにどうして日本の松が、例えば合板会社へ持っていっても、



1万円ちょっとなのかということで、不思議だなと思いました。

○参加者

特に山梨は峡北の松なんて、日本ではもう本当に名木の部類ですから、もうあれですよ、峡北というか、山梨県の北巨摩産の松だというのは、昔から値段がちょっと違うんです、全然。だから西に行っても、日本全国どこへ行っても、北巨摩の松というのは有名です。それぐらい山梨って、そういう名木なり何なりがすごく産地だったと。御坂山系のヒノキなんていうのは、もう先ほど知事さんとも言われたとおり、こちらから行った木が向こうへ行って製材して返ってくる時には、東濃材になっていると。本当にそうですよ。東濃材と全く変わらないくらいいい木ですよ。

向こうの人がほしがるといのは、そこなんです。御坂山系の木ってそのぐらいすごく質がいいので、向こうにもって行って東濃材といっても、誰も見分けが付かないぐらい名木なんです。それは何で山梨の木じゃないかなというのは、ずっと自分も感じていることなんです。

やっぱりそんないい木を、何で山梨のブランドで売れないかなというのをずっと感じていましたね。

○知事

南部の木材市場にしたってそうですよね。どこのブランドになっているかわかりませんね。

○参加者

地域材利用の関係で、うちの組合員も材を提供してくれとかという話が来ているんですが、そういう格好で県に進めていただけると、今まで外材でつくっていた、あるいはこういう鉄筋でつくっていたものが、地域材、県産材になると・・・。

それがモデル的になれば、私どもも木が動いて、非常に活発になると思います。それと先ほどから知事さんの言っているペレットですか、ペレットもできましたら県の施設とか、あるいは家庭の暖房用なんていうもので利用しても知れているわけなんです、そういう暖房もペレットとか、甲州市でやっている熱エネルギーに変えていることとか。そういうような関係で公共施設にそのペレットとか、あるいは熱エネルギーを活用するのであれば、私どもも永久品というか・・・。

チップとか、チップ以下の木は切るとしたら3割、4割出てしまうんです。それをペレットとかにして、その熱エネルギーを農家で使うとか、あるいは暖房です。ぶどう園とかサクランボとか。あるいはこういう公共施設でA重油の代わりに使っていただけるようになれば、すべて木材を変えていけるのではないかと。

○知事

ペレットというものは、端材みたいなものを林業機械に入れればペレットになってしまうというような。

○参加者

あれは特に今、おがこにしまして。おがこにして、それへ乾燥をかけて、そして圧縮して。熱利用にかなり時間がかかるかと思うわけです。私どもも、製材へ持ち込めない枝とか、そういうものをそこで買っていただけるから助かるわけな

んですが。

ただ、作っても、組合さん、そんな売れないから困るんだよと。やはり大量に使うところがあれば一番いいんですが。

○知事

ペレットストーブというのは、随分いろいろな種類がありますよね、たくさんね。イタリアのペレットストーブが一番いいと言われてますね。

○参加者

ハイカラで、見た目もきれいですよね。

○知事

なるほどね。あれはオリーブね、イタリアは。オリーブの油を絞るでしょう。そうすると、どうしても種が出てくるんですよ。あれに困ってしまって、それでみんなあれをペレットにしたんですよ。

しかしいずれにしても、ペレットストーブをもっと普及できればいいけれども、どういうことがあるのかなと思ってね。確かにハウスなんかは重油を使ったものがペレットを使えば非常にいいわけですよ。なかなかやっぱり熱量が安定しないとか、いろいろあるんでしょう。

○参加者

今、自動的にできますから、A重油と同じような形で使えるんですよ。山梨市駅前につくった施設は、そういう格好で、市自らそうやってくれていますから。もしできましたら、県のほうの施設でも、一度モデル的につくってもらえれば、県自らクリーンエネルギーだというような形になれば。

○知事

確かにそうですね。

○参加者

早川町の雨畑温泉も機械でやっている。

○知事

あれはペレットとは違う特殊な技術ですよ。まきをガス化しながら・・・。

○参加者

研修に行ったことがあります、まきを入れて、そして温泉や暖房もやって。

○知事

ペレットを本格的に研究と同時に普及させなければいけないからね。

○参加者

やっぱり課題は、出口ですよ。使用してくれないとコストが高いので、使用するところがどんどん増えてくれればコストが下がる。だから公共施設でまず使おうというのが・・・。

だから本当は公的というとおかしいですが、今、温泉とかいっぱいあるじゃないですか、自治体なんかの。あれなんか、もしボイラーが耐用年数が過ぎて入れ替えだというときには、まず率先してやってもらいたい気がしますがけれども。

○知事

まだあまり耐用年数が来てないんですよ。確かに20年前ぐらいにつくって

いるからね。

○参加者

単価が高いんですね。大量生産というか、ペレットは普及していないですから、大量生産できないので、コストがすごく高い。

○参加者

イメージはよくなりますよね。

化石燃料でボーボーやっているよりも、ペレットであれば・・・。

○参加者

特に山梨県というのは、そういうものを売りにしたらどうですかね。環境に配慮したペレットストーブを買ったら、半額は補助しますよとか。

○参加者

使いたいのは使いたいと思うけれども、高すぎるから。

○参加者

うちは実はまきをやっているんですよ。広葉樹のまきを1年中つくっているんですが、そのまきの需要というのが、このところ灯油が高かったりするとかなり問い合わせがきますよ。まきをとというようなオファーがありますので、やっぱり意識はかなり高くなっていると思います。

○参加者

山梨にいとエアコンまで、そういうペレット・・・。

だから夏場も使ってもらえる、安全的に。

○知事

あれは清里に持っていっていますよね、あれね。

○参加者

需要の集まりが出てくるから、絶対に回ると思うんですが。

○参加者

とにかく、多くの人が利用し始めれば、ストーブも安くなりますし、ペレットは安く作れる。これまでがなかなか進んでいかないというのが現状ですよ。

○参加者

例えば今の話で、ペレットストーブが普及してきたとしますよね。そこで一番私たちが身に迫って感じるのは、どこに運べばいいんだと。

例えば県森連みたいところに運んで、そこが中間の受け皿になって、ほしいお客さんのところにお配りできるような、そういう体制があれば・・・。

○参加者

ある意味、価格の安定ですよ。

○知事

やっぱりあまり県だとか市が関与してやる、大体、うまくいかないんですよ、こういうことは。民間でうまく転がるのが一番いいんですよ、本当はね。

どうすればいいですかね。工夫していきましょう、非常に重要な課題ですよ。

○参加者

県のほうから、そういうものがあったり、自分たちでこれをやりたいじゃない

ですかね。

○知事

山梨県産材というものは、ブランド化は難しいですかね、だけど。どうですか。量が少ないですからね。

○参加者

これは山梨県産材というので、知っている人は知っているんですよ。特に今は世代が代わってしまって、山梨からいい材料が出たことを知らない世代になってしまったと、ちょっと今、マイナスの要因ですよ。私たちがやっていた当時なんていうのは、製材を買っている人が山梨県産材のこれこれ、これはいいですよというものが通っていたんですが、今それがちょっともう薄れてしまっていて。

○知事

F S Cっていうのは、まだ聞かないですかね、やっぱり。

○参加者

知られてきてはいるんですがね、なかなかまだ一般の方までは普及されていないですかね。企業の方なんかはF S Cの、よくね、最近、ハウスメーカーがたくさんほしいというような。

○参加者

量がないというけれども、ちゃんとしたそういう受け皿がないから、みんな個人で持っていってしまうから量が少なくなっちゃうんじゃないかなと思うんです。ちゃんとした受け皿があって、例えば一本化にして、では少しずつでもみんな持ってきて、ここにポンと置いてやれば、量は少ないということはないんじゃないかなという気がしないでもないですがね。そのへんはちょっと、我々も年間どのくらいを材質が出ているか分からないので、あまり言えないんですが・・・。

○参加者

私は思うんですが、山梨県だからできる林業経営の仕方というものを、やっぱりやっていただきたい。ほかの県と同じことをやっているのではなくて、山梨県はここへ、これだけのことをみんなに理解してもらってやっているんだ。だから山梨県の木はこれだけ管理されている。

山梨県の木はちゃんと管理されて、そのあとのことも、育林も全部考えて生産していますからということをうたってもらいたい。

ペレットとかの生産に向けても、みんなそれがブランド化していく後押しになっていくと思うので、山梨だからできるというところを何とか。

○知事

だけど県有林なんていうと、親方日の丸になっちゃってね。

県有林を株式会社なんかにしてね。どこかへ売ってしまって、どこかの会社に。

○参加者

今の話ですけれども、宮崎県の植樹祭に行かしていただいたんですが、その時の話では、木を切って植えられない。向こうですと、みんな竹やぶになってしまって、もう森林にならないそうです。だからやっぱり今、親方日の丸とは言えども、公的な県有林ということで、やっぱり自分たち今まで一生懸命やってきた

ものであって、必ず植える。やっぱり公的なものだからできるんだと。

○知事

管理はできていますからね。

○参加者

他県に行っても、私たちみたいにこんな若い後継者はいないです。どこに行っても、山梨はこんな若い人たちがいるんだって、誇れると思うんですよ。

○知事

やっぱり県有林であって、安定的にそれなりに、儲からないけれども。それなりにやっぱり仕事が安定的にあると。

○参加者

今まであったから、私たちもやってこれましたし、ほかの県の方が一番びっくりするのが、林業だけで本当にやっていると言われるんです。本当にすごいねと言われます。

○参加者

だから言葉を変えれば、私たちが育てられたようなものですよ、本当に。県有林の木に自分たちが育ててもらったという。

○知事

ほかの県は県有林の代わりに国有林が多いところがすごくあるじゃないですか。

○参加者

でも国有林ではやってこれなかったです。

○参加者

ましてや年輪の会みたいに、それぞれ会社を持っている人たちが、こうやって事業に関していろいろなことを考えて、同じことを考えて、ボランティアもやったりとか、そういう団体というものは皆無に近いそうです。まずないと。すごいびっくりされます。

○参加者

この間、知事さんの講演会でやった、東京農大の先生の話、あれは私、ものすごく感動しましたよ。長寿では沖縄とかあちらこちらすごくいると。でも年をとって元気なのは、山梨県が日本一だと。全国平均が71.2だが、それより高いと。それはなぜかと言ったら、水がいいこと、森林という、そういうものがあるから、だから絶対誇るべきですよと、あのとき話をしてくれましたよね。あれを聞いて、私たちはうれしかったですよ。

○知事

ちょっと普通よりも高いということだね。

そのとおりだね、そういうことを売りにしていかなければいけませんね。

まだしゃべってない方は。

○参加者

最初の話に戻ってしまうんですが、林業全般はほとんど特殊作業なので、今のところ普通作業員という形でしているんですが、やっぱり特殊扱いにしてもらいたいという気持ちでいっぱいなんです。

○知事

特殊扱いというのはどういうことですか。

○参加者

特別作業員、建設業とかそういうようなところはやっていますけれども。

○森林整備課長

労賃の基準みたいなものの、設定の単価のことですね。

○知事

単価がね。

○参加者

本来、設計の基準のところでは、特殊作業員でやりなさいと書いてある・・・。

○知事

労務単価ね。

○参加者

本来はそれでやらなければいけないと書いてあるんですが、普通作業員になっ  
てしまっているんです。

○知事

それは県有林がそうなっているんですか。

○参加者

やっぱり山の中で機械をぶんぶん振って、それは本当に特殊の中ですよ。ぜ  
ひ、そういうことを・・・。

○参加者

30度、35度のところですからね。

○参加者

森林環境税のことなんですが、ちょっとPRが足りないのではないかなと。先  
日、同級生と話をする機会があって、森林環境税のことを聞いてみたら、名前は  
知っているけれども、内容はよく知らない、もっと金を取られるのかと、そん  
なような話を。

○知事

まだ動きがないからね。23年に条例にして、24年の4月から始めるという  
ことだから、条例化を進めていくと同時に、もっとPRしなければ駄目ですね。

○森林整備課長

皆さんからお金をいただくものですので。

○参加者

林業関係者は大体分かると思いますが、一般の方たちはあまり・・・。

○参加者

もうちょっと私たちを使ってもらって、やってください。どんどん先頭に立っ  
てやりますので。

○参加者

関連した話なんですが、昔と比べて、かなり今は森林の役割というのは県民の  
皆さんに知られていると思うんですが、まだまだ私たちから見ると、もっともっ

とアピールしてもいいんじゃないかなというような気がしますね。

ましてや、今言った環境税みたいなものを取るのであれば、なおさらそういうことをね。

○知事

恩賜林なんていうものは、山梨の誇るものだけでも、一般の県民は知りませんからね。それはそのとおりですね。

○参加者

森林の役割とかを県民の皆さんが分かってくれると、私たちも胸を張って仕事ができる。

○知事

県の環境科学研究所というものがあって、あそこで、森林の人間の健康に及ぼす効用みたいなものを研究している人がいるんですが、いろいろ面白いことを言うんですよね。やっぱり森林浴、あるいは森林の中で、例えばコテージとかそういうところで眠ると、眠りが非常に深くなるとか、あるいは唾液から人間の免疫力が分かるんだけど、免疫力がだんだん高まってくるとか、年を取った人ほど森林浴をすると血圧が下がるとか、いろいろ面白いですよ。だからそういうことをもっとPRしなければね、そういうことをね。

○参加者

木造の校舎にした学校では子どものケンカが少ないと。あれはもう何か研究で出ている。だからやっぱり小学校とか、特に校舎は木造にするべきだという研究は出ているんですよ。

その体育館でも、例えばコンクリートでどうしても耐震をやらざるを得ないじゃないですか。でもその周りの壁とかを木造にすることによって、全然精神状態が違って来るらしいです。やっぱり木というのはすごいいい。

○参加者

保健室なんかを、保健室だけだったら、そんなに大きくないので、やってみると、結構やっぱり違うみたいです。

○知事

それはやっぱり心理的な効果だけではなくて、何か物質が、何かあるんでしょうね、きっとね。

○参加者

やっぱり循環型林業を進めていただきたいなと思います。民地ではなかなかできなくても、県有林の場合は、いろいろな機能を発揮できるような山をつくれると思うので、ぜひそういう循環型林業を進めていただきたいなと思います。ぜひよろしくお願いします。

○知事

もう1つ、最近、熊森協会なんていうものがあって、野獣が外に出てくるものだから、もっとやっぱり広葉樹林というものをもっと入れていかなければいけないということを盛んに言うんですが、ああいうことはどうですか。それはそれでいいわけですね、皆さんは。

○参加者

民地なんです、その所有者が今年も植えたところなんです、来年も4ヘクタールほど植える予定なんです、桜とかモミジ、カエデを植えたなんていって。

○知事

自然的に近い形にするということですね。

○参加者

自分の家から見えるところだから、特殊の例かもしれませんが。

○知事

どうせ木を植えても大して儲からないから。それじゃあまだ自然に戻したほうがいいと。

○参加者

そして見えるから、その桜も見たいと。春は桜を見たい、秋は紅葉を見たいということで。

○参加者

でもあまり雑木林も、今度、年齢、樹齡がいきすぎてしまうと、今度は土が流れてしまうとか、そういうこともある。ですから、ある程度の年齢のときに切ってあげて、若返らせてあげる。そういうことによって、山も活性化されてくると思うんですね。山の力を本当によみがえらせてあげるという意味でも、そういうところもやっぱり考えていただきたいと思います。

○参加者

県有林がモデルケースになってもらいたいですね。極端に言えば、日本や世界のモデルケースになってもいいと思うんです。それぐらいの自負を持っていい山だと思ふので。

○司会

それでは最後に知事のほうから。

○知事

皆さんありがとうございました。

大変に貴重ないろいろな多方面にわたっていろいろな貴重なお話をありがとうございました。

山梨の県有林というのは、これは本当に県の財産としてあると。これはもう大変な宝物ですから、有効に活用をしていかなければならないということの話もありましたし、いろいろなペレットの活用の問題だとか、いろいろ我々がこれから課題として取り組んでいかなければならないことをたくさんご指摘いただきました。ありがとうございました。

最初に申し上げましたように、年輪の会の皆さんに対しては、我々行政サイドも大変期待しておりますので、一緒に二人三脚で力を合わせて県有林をよい県民の役に立つ森にするように頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

どうも皆さん、ありがとうございました。



○司会

以上をもちまして、ひざづめ談議を終了させていただきます。